

令和3年（2021年）の秋田焼山の火山活動

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

地震活動及び噴気活動は低調で、地殻変動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2021年の発表履歴

2021年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○ 2021年の活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1～7、図8-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、湯沼の噴気の高さは噴気孔上100m以下、^{さけびさわ}叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上80m以下で、噴気活動は概ね低調に経過しました。^{つがもり}梅森監視カメラによる観測では、湯沼や叫沢源頭部の噴気のほか、湯ノ沢上流で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

3月に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、これまでの観測と比較して、叫沢源頭部、湯沼付近、湯ノ沢上流、トキワ沢上流及び叫沢中流域の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図8-②、図9、図10）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図11、図12）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この資料は、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_v-act.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状態（12月7日）

・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約2km）の映像です。

湯沼の噴気の高さは噴気孔上 100m以下、叫沢源頭部の噴気の高さは噴気孔上 80m以下で、噴気活動は概ね低調に経過しました。



図2 秋田焼山 湯沼と湯ノ沢上流の状況と地表面温度分布（12月7日）

・拇森監視カメラ（湯沼の東約1km）の映像です。

湯沼や叫沢源頭部の噴気のほか、湯ノ沢上流で弱い噴気が認められました。湯沼（水色破線）及び湯ノ沢上流（黄破線）の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

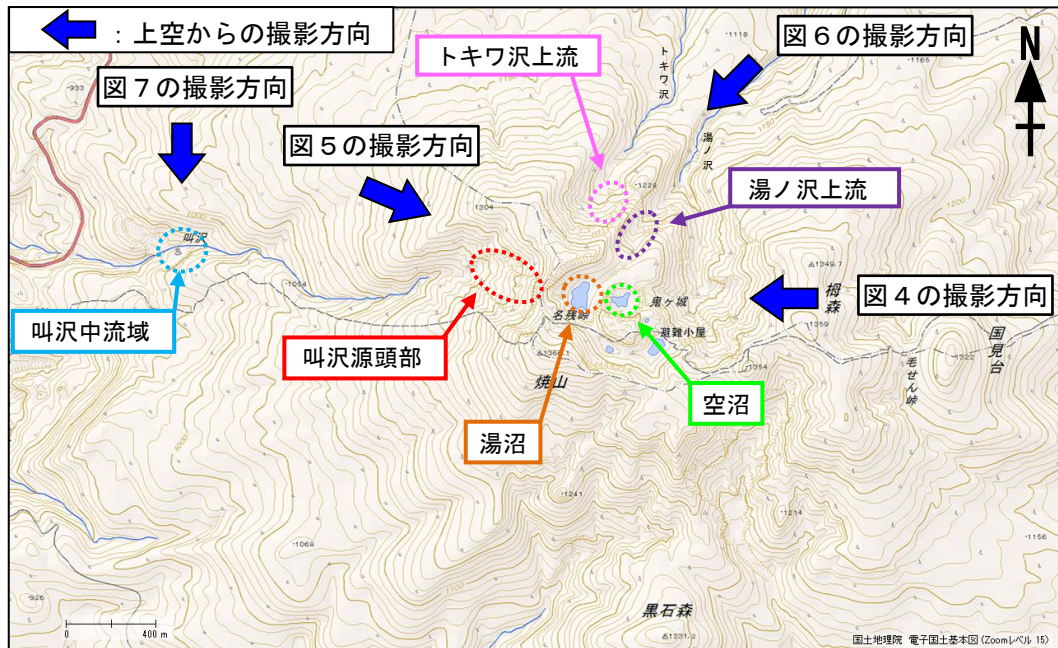


図3 秋田焼山 地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

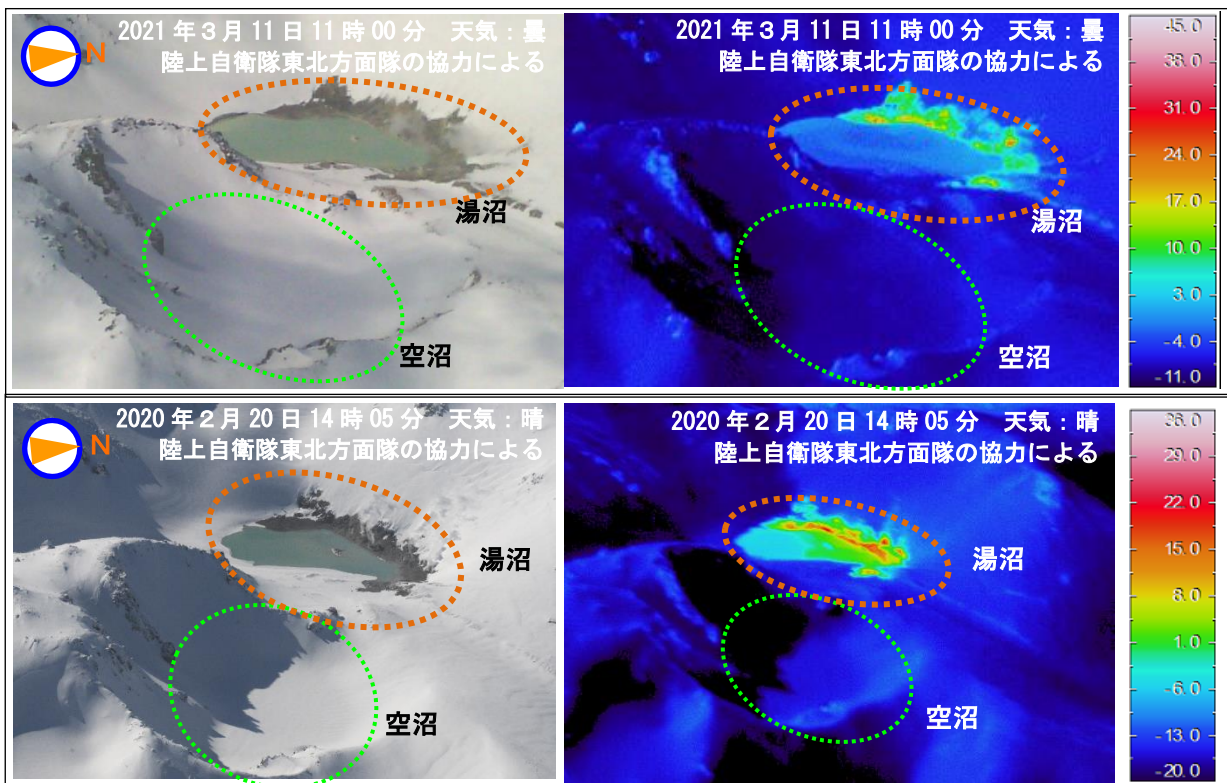


図4 秋田焼山 上空から撮影した湯沼及び空沼の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

湯沼の地熱域に特段の変化はありませんでした。空沼では地熱域は認められませんでした。
湯沼では高さ30m程度の噴気が認められました。

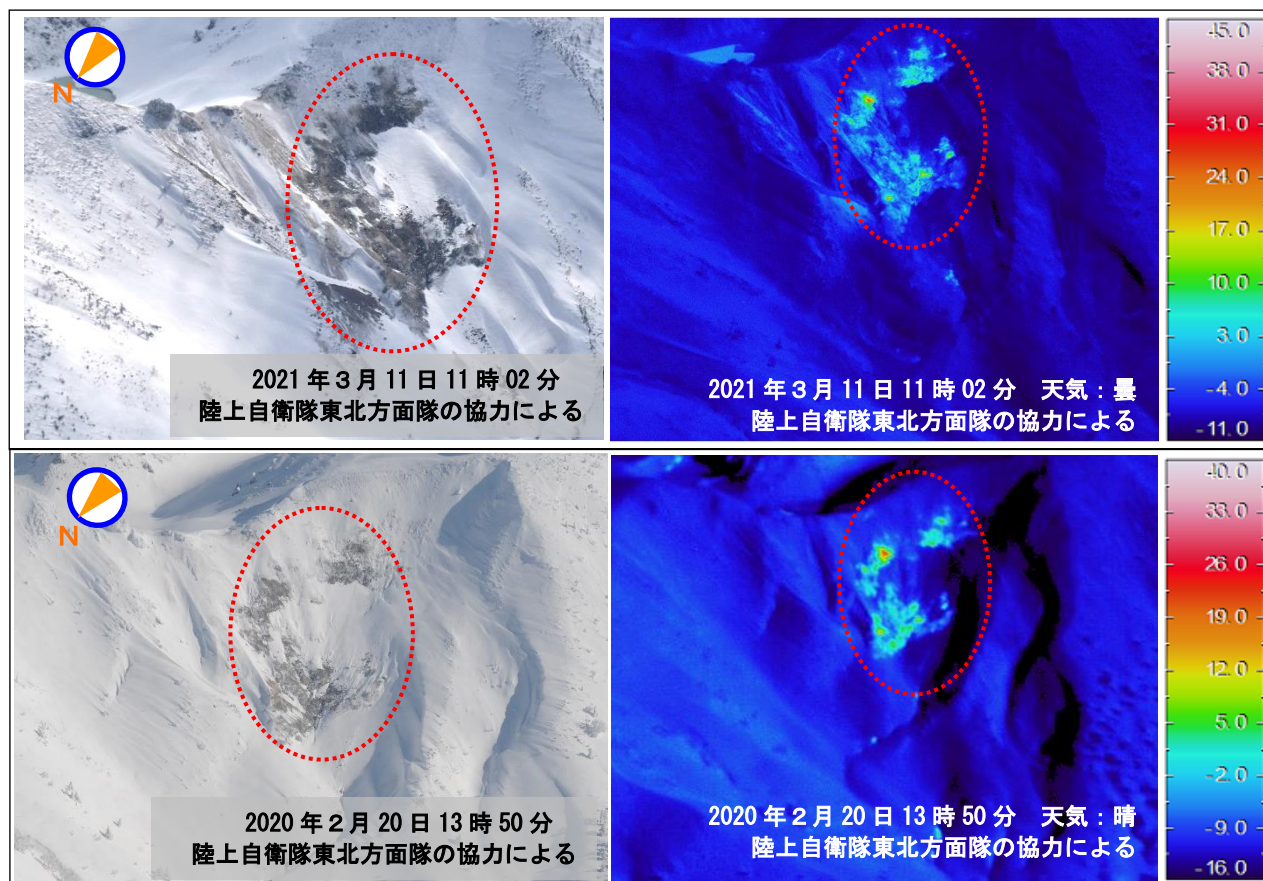


図5 秋田焼山 上空から撮影した叫沢源頭部の状況と地表面温度分布

・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

地熱域に特段の変化は認められませんでした。

叫沢源頭部では高さ10m程度の噴気が認められました。

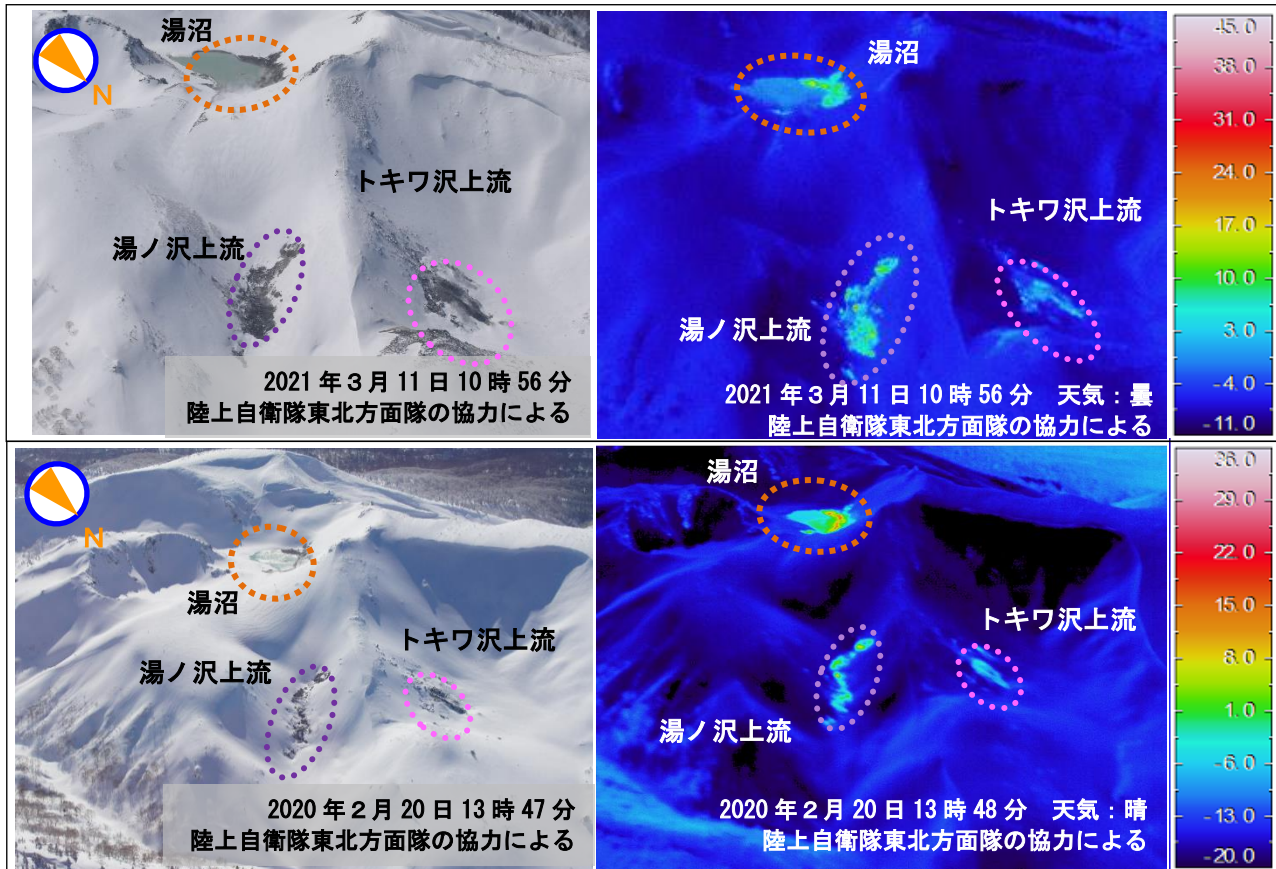


図6 秋田焼山 上空から撮影した湯沼、湯ノ沢及びトキワ沢上流の状況と地表面温度分布
・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

湯沼、湯ノ沢及びトキワ沢上流では弱い噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

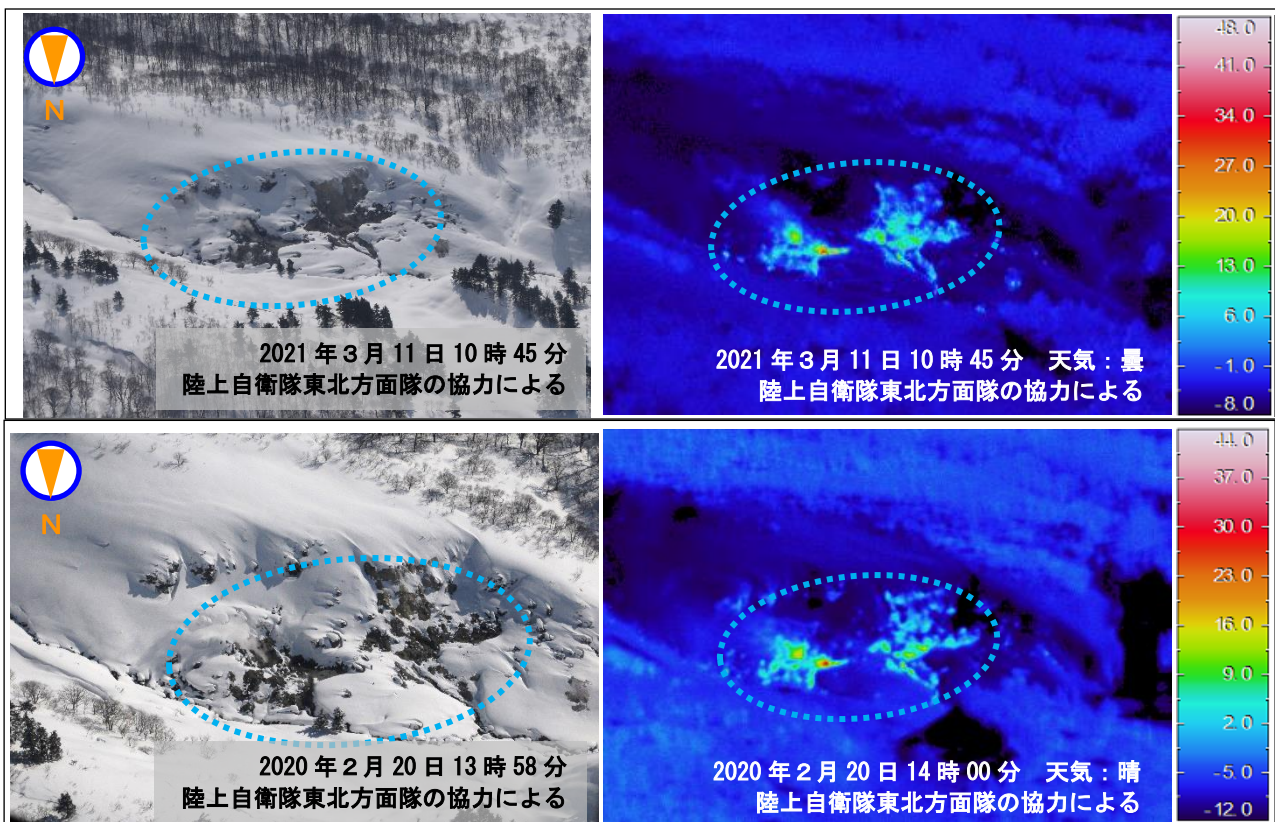


図7 秋田焼山 上空から撮影した叫沢中流域の状況と地表面温度分布
・図中の破線の色は、図3の破線の色に対応します。

叫沢中流域では弱い噴気が認められましたが、地熱域に特段の変化は認められませんでした。

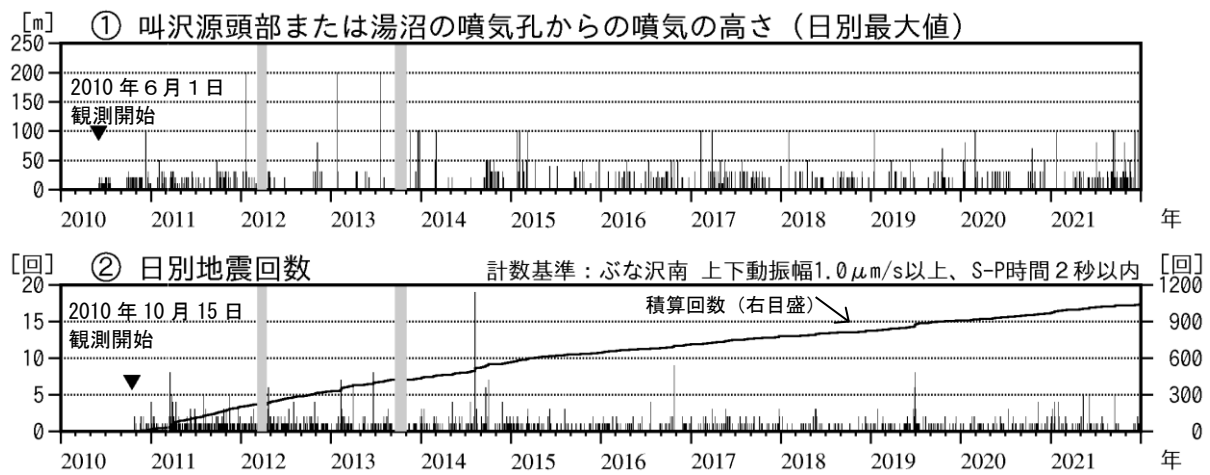


図8 秋田焼山 火山活動経過図（2010年6月～2021年12月）

- ・ ②2015年9月以降は山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（2010年から2015年8月までは山の南西7-8km付近の地震など山体以外の地震を含みます）
- ・ 灰色部分は欠測を表しています。

噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

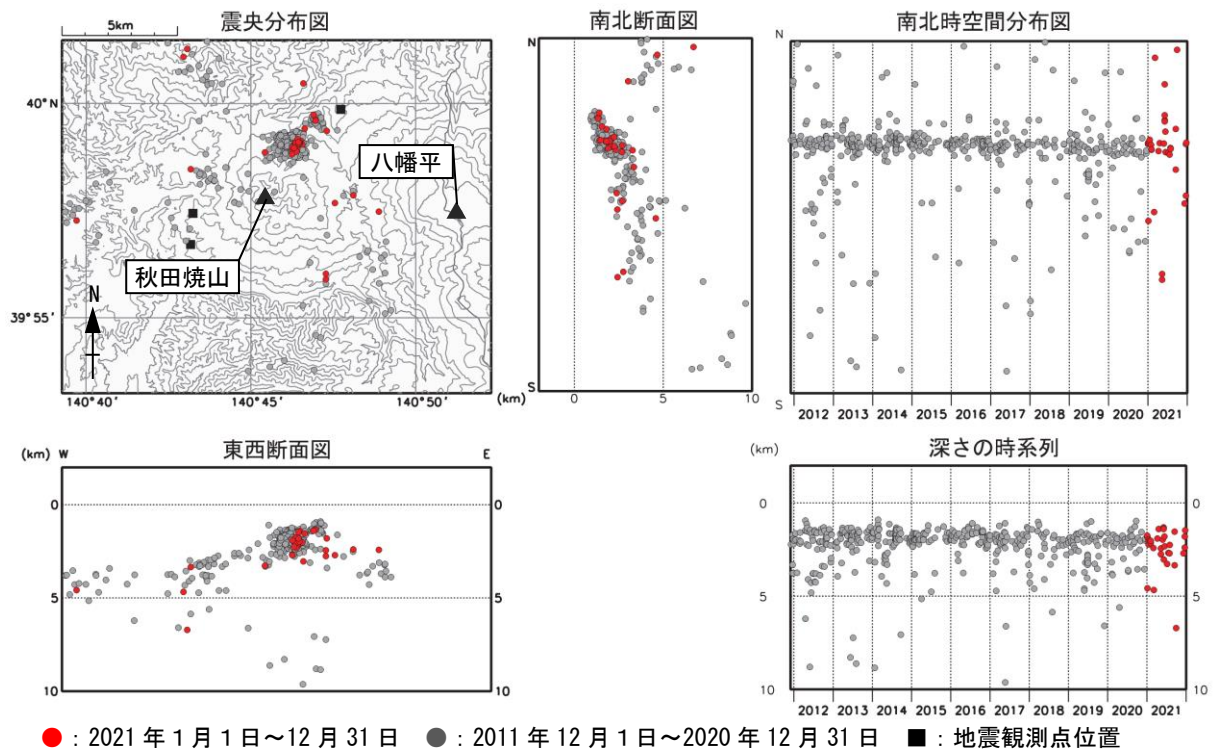


図9 秋田焼山 地震活動 (2011 年 12 月～2021 年 12 月)

・震源決定には図 13 の右の地震観測点も使用しています。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

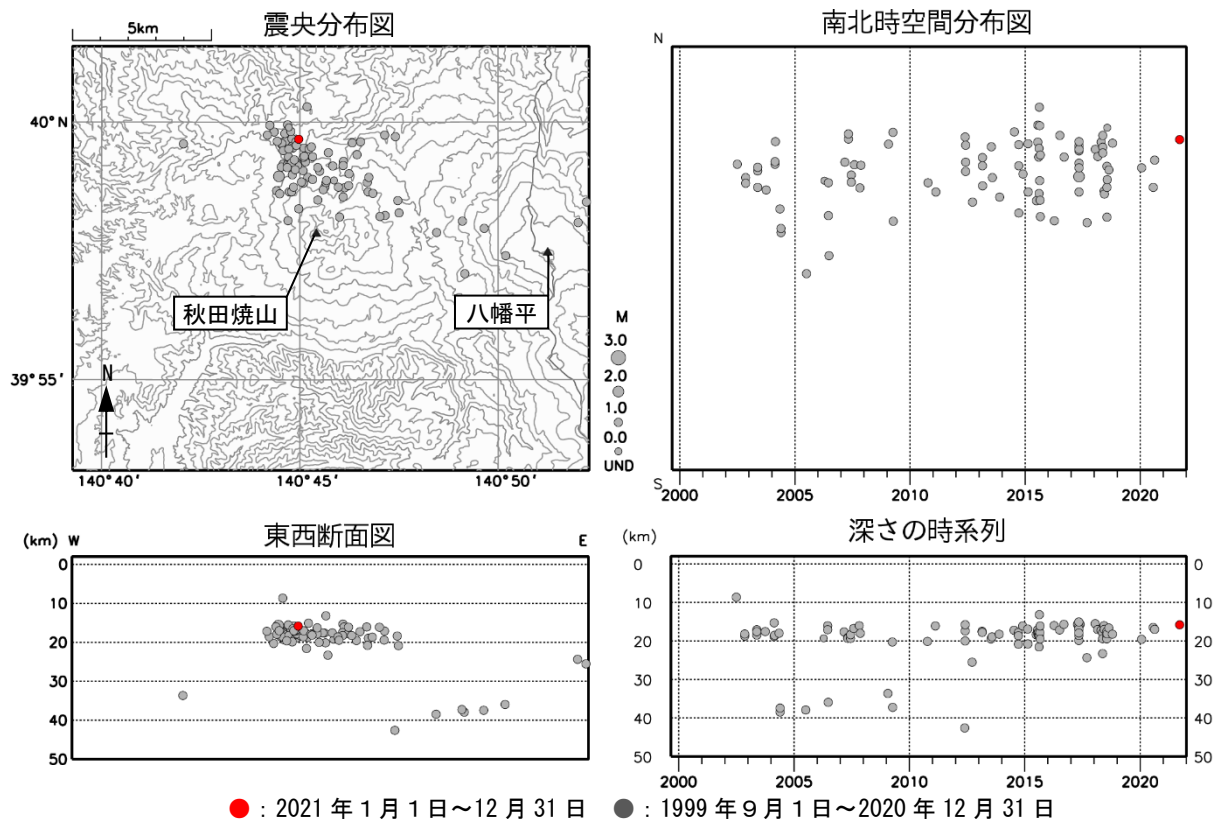


図10 秋田焼山 広域地震観測網による深部低周波地震活動 (1999 年 9 月～2021 年 12 月)

- ・2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。
- ・2020 年 9 月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。
- ・2022 年 1 月 25 日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。(1)2020 年 9 月 1 日から 10 月 23 日まで、(2)2021 年 1 月 9 日から 3 月 7 日まで、(3)2021 年 4 月 19 日から 12 月 5 日まで

深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

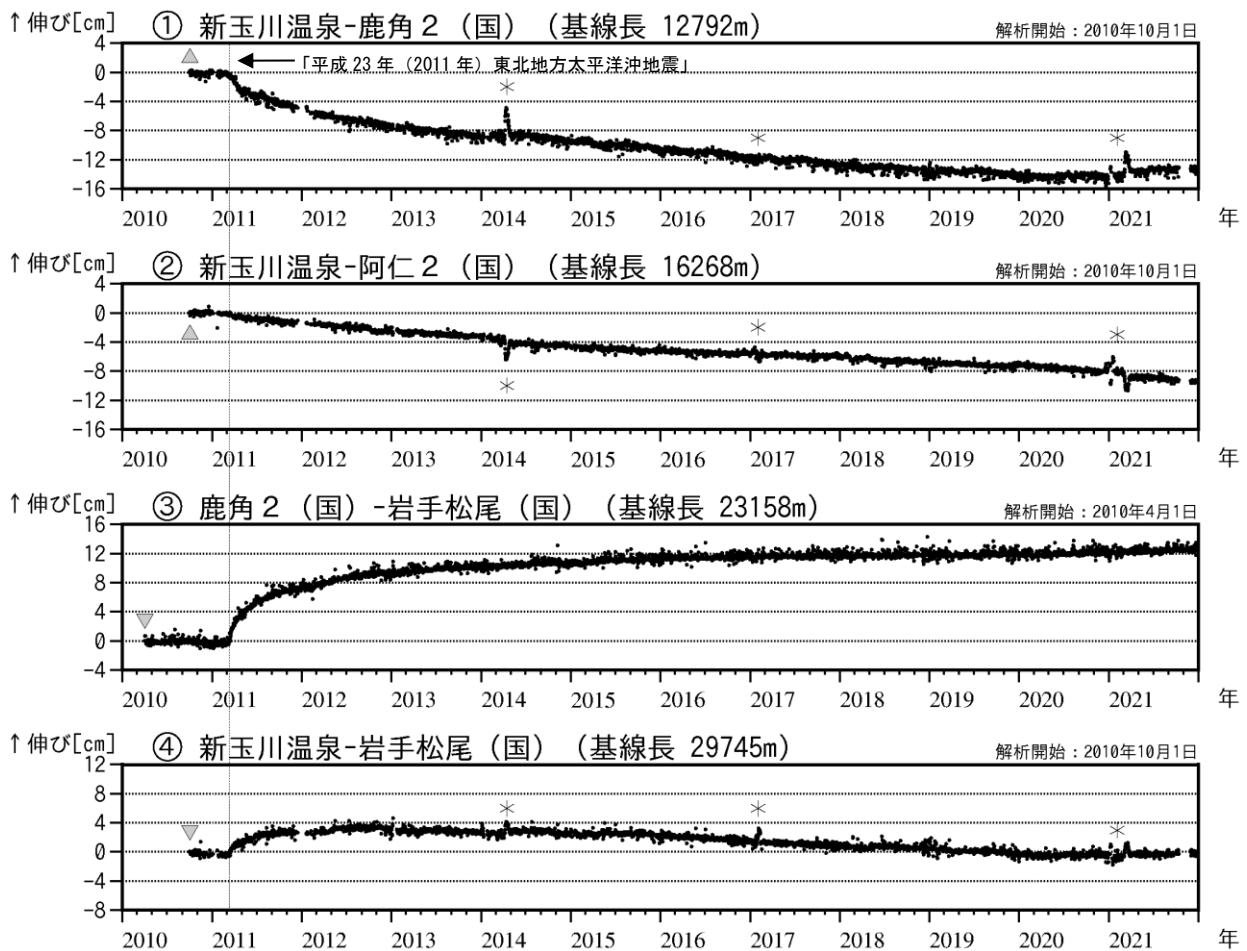


図11 秋田焼山 GNSS 基線長変化図 (2010年4月～2021年12月)

- ・「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～④は図12のGNSS基線①～④に対応しています。▼▲: 解析開始を示します。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。・(国)は国土地理院の観測点を表します。
- *: 2014年3月から4月、2017年1月から2月及び2020年12月から2021年3月にかけての新玉川温泉観測点の変動は、火山活動に起因するものではないと考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

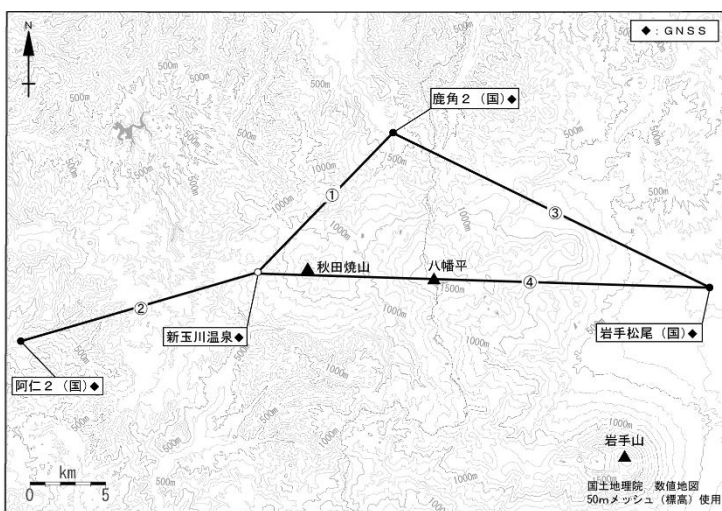


図12 秋田焼山 GNSS 観測基線図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院

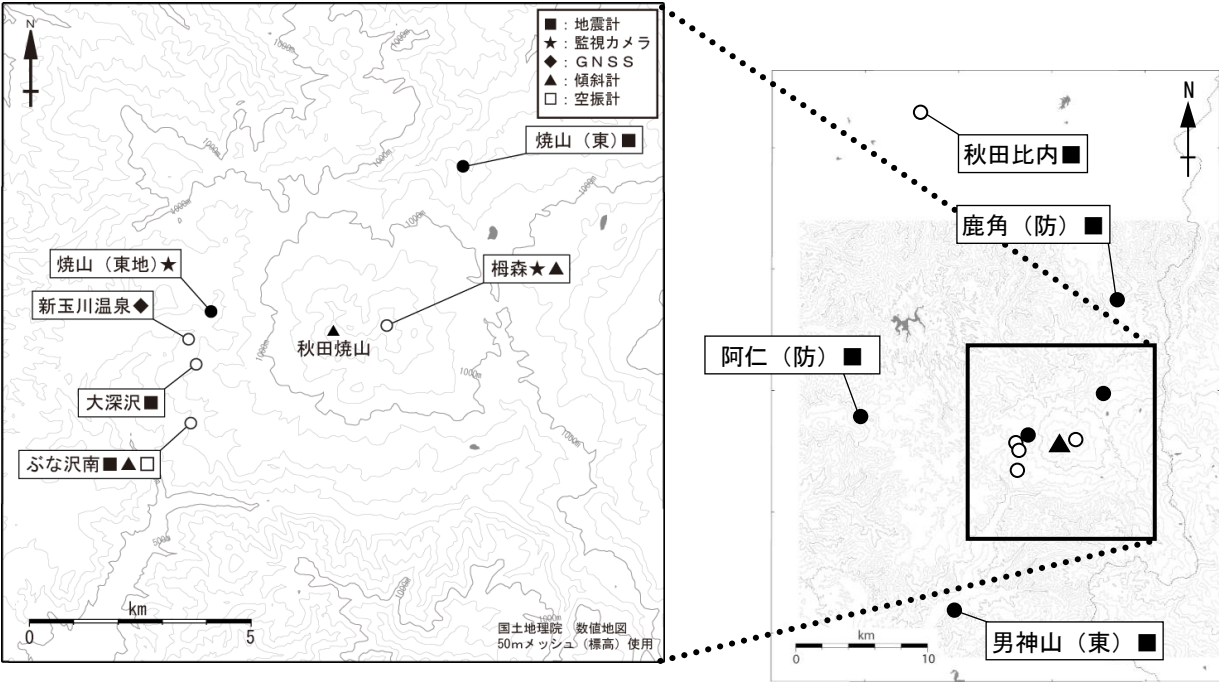


図 13 秋田焼山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

表 1 秋田焼山 気象庁観測点一覧

観測種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		北緯	東経	標高 (m)			
地震計	ぶな沢南	39° 56.71′	140° 43.17′	738	-101	2010.10.15	
	大深沢	39° 57.44′	140° 43.24′	813	-3	2016.12.01	広帯域地震計
空振計	ぶな沢南	39° 56.71′	140° 43.17′	738	4	2010.10.15	
傾斜計	ぶな沢南	39° 56.71′	140° 43.17′	738	-101	2011.04.01	
	柵森	39° 57.91′	140° 46.26′	1356	-15	2016.12.01	
GNSS	新玉川温泉	39° 57.75′	140° 43.11′	733	5	2010.10.01	
監視カメラ	柵森	39° 57.91′	140° 46.26′	1356	4	2016.12.01	可視及び熱映像